

スギカミキリ成虫を捕獲するバンド法

1 はじめに

スギカミキリ成虫（以下カミキリ）は樹皮の隙間などに隠れる性質をもっています。スギ樹幹に遮光ネットを巻いたところ、樹幹とネットの間に入り込むカミキリを捕獲できることが分かり、バンド法と名付けられました（柴田, 1984）。現在、厚紙の裏に粘着剤を塗布したバンドが市販されており（写真-1。森林組合などで購入できます。）、防除やモニタリングに用いられています。

2 粘着バンドの効果

粘着剤を塗布したバンド（以下粘着バンド）を樹幹に巻いておくと（写真-2）、樹皮とバンドの間にできた隙間にカミキリが入り込み、粘着剤に捕らえられたカミキリは動けなくなり、やがて死亡します（写真-3）。カミキリ成虫は4月下旬ころに羽化脱出してきて（林業技術情報No15）、脱出後すぐに交尾、産卵を行います。脱出直後のカミキリをバンド法で捕獲し、交尾、産卵を防げば被害が抑えられます。林業技術センターでは昭和63年から平成4年にかけてバンド法に関する調査を行いました。スギ立木約100本に粘着バンドを巻き、別のバンドを巻かない100本の立木との間でカミキリの被害率に差が生じるか調査しました。図-1 はある調査地での被害率の推移を示したものです。粘着バンド処理区では当初10%の被害率だったのが5年後は14%と被害率の増加をある程度抑えられたのに対し（一度受けた被害は消えないので、被害率は減りません）、バンドを巻かなかった区では当初8%の被害率が5年後には27%に増加しました。

3 バンド法実施の留意点

図-1は良好な結果を得られた事例ですが、被害を完璧に抑えているわけではありません。バンド自体にカミキリを誘引する作用は無く、偶然バンドに接近したカミキリが捕獲されるので、捕獲前に産卵をすることがあるからです。また、バンドの巻き方によってはカミキリの捕獲率に差が生じることもあります。粘着バンドの施用法と注意点については次号で紹介いたします。

引用文献

柴田 勲 氏 (1984) スギカミキリ成虫を捕獲するためのバンド法について. 森林防疫33 : 30-35.



写真-2 樹幹に巻いた粘着バンド



写真-3 粘着バンドに捕獲されたスギカミキリ



写真-1 殺虫剤塗布バンドと粘着バンド

上から、殺虫剤塗布バンドの表側、裏側（樹幹に接する側、黒い部分に殺虫剤が塗布してある）、粘着バンドの表側、裏側（樹幹に接する側、光っている部分が粘着剤）。

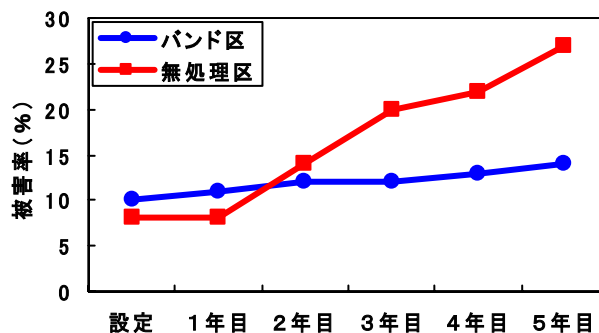


図-1 粘着バンドの効果試験の結果

(担当 森林資源部 主任専門研究員 高橋健太郎)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11

岩手県林業技術センター

ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>

TEL 019-697-1536

FAX 019-697-1410